

妙高市  
主任ケアマネの会

### 令和元年度 第1回 県立中央病院との意見交換会 開催しました！

スムーズな入退院支援を行うため、平成31年1月に妙高市主任ケアマネと中央病院との意見交換会を行いました。病院、在宅という立場が違うからこそ、互いを理解するという気持ちを持ち、繰り返し話をして、歩み寄ることが大切ということ学びました。

#### 開催概要

- 日 時：令和元年7月8日（月）14時から15時
- 会 場：県立中央病院 講堂
- 目 的：円滑な退院支援を行うにあたり、介護支援専門員の業務の実際について、情報共有を図り、病院と介護支援専門員の連携や理解を深める
- 参加者：28名 県立中央病院入退院支援委員看護師、退院支援看護師  
妙高市主任介護支援専門員、在宅医療推進コーディネーター、妙高市

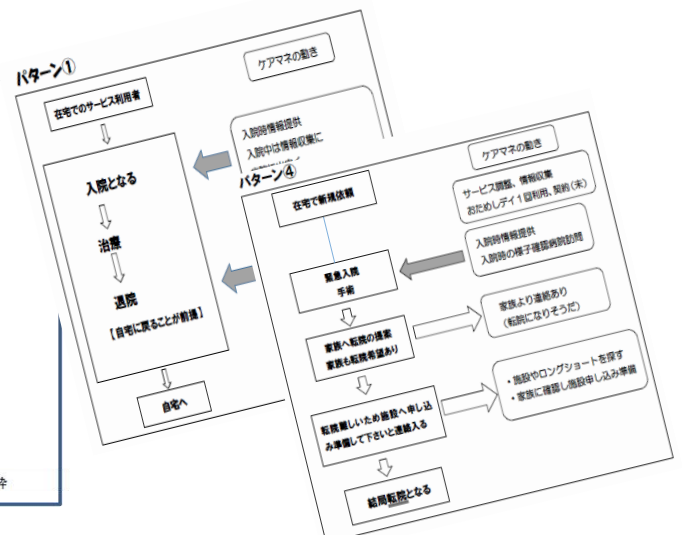
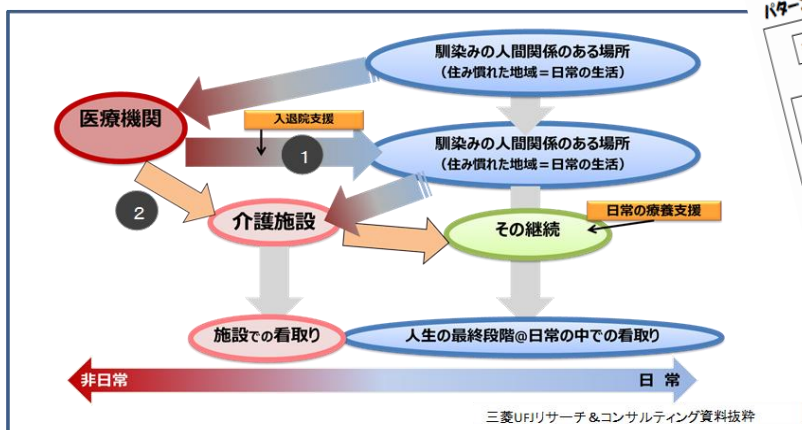
#### 介護支援専門員の業務について その1

- 私たちケアマネは、ご本人が在宅で自分らしく生活することができるよう、相談、アセスメント、ケアプランの作成、担当者会議の開催、モニタリング、評価の一連の流れで支援を実施している。
- 退院支援は、在宅に帰る場合と、施設に行く場合では、ケアマネの関わり方が変わってくる。一連のケアマネマネジメントを実施し、サービス利用につながったとき、給付管理を行い、報酬を受ける。
- 退院支援に向けては、様々なパターンがあり、状況に応じた支援を行っている。結果として、無報酬になる場合も少なくはない。



さくらメディカル 岩崎主任介護支援専門員

～配布資料より抜粋～





## 介護支援専門員の業務について その2

入院中は、本人・家族の気持ちは揺れ動くことが多く、在宅に帰る不安を抱えています。その思いに寄り添いながら、支援しているケアマネの気持ちについて、事例を通して、紹介しました。



新井愛広苑  
小嶋主任介護支援専門員



揚石医院  
樋口主任介護支援専門員

社会福祉協議会  
宮越主任介護支援専門員

寸劇で紹介！  
あるある事例  
～ロングショート編～  
★ケアマネの心の声も紹介★



連携センターや病棟看護師さんに「助かりました」「すぐに来てもらってよかった」と言っていたのも、励みになっています。



## グループワーク・発表

～ホンネ!? でグループワーク～

- 考え方、認識の違いがあることがわかった。役割を認識することが大切だと思う。
- お互いを思いやり、支援することで、患者や家族の安心につながる。
- 本人、家族は入院により、先が見えない不安を抱えている。  
看護師も「退院のその先」が見えづらく、「とりあえず介護申請」「ケアマネに任せれば（施設探しも何でも）大丈夫」と考えていた。  
ひとくくりではないことが分かった。
- 本人、家族にサービスの提案を行う前に、ケアマネに相談するとよい。
- 家族の「家で看れない」を鵜呑みにするのではなく、どういう状況なら看れるかを考え、ケアマネの提案を受け入れていくことが大切。
- 医師に対しては、「在宅は難しい」と先入観を持ってもらわないよう、「家族やケアマネと相談していく」ことを、事前に看護師から伝えられるとよい。
- 入退院支援委員として、病棟の看護師へ伝達し、理解を深めていく。



## アンケート結果より

- お互いの日頃の業務について理解するためには、意見交換会は有意義だった。
- 具体的な話が聞けてよかった。今後も連携させてほしい。
- 他の病院ともこのような連携が必要ではないかと思う。

次回は12月頃を予定しています。内容や方法は今後検討していきます。

